

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(№1から№87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(№88から№100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	(有)鹿屋介護サービスセンター
(ユニット名)	グループホーム ゆうきの里
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市菰川町5204-3
記入者名 (管理者)	今府 ミチ子
記入日	平成 20年 8月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	常日頃から理念に基づいた援助方法をスタッフと共有している。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り前に全員で理念を唱和、退勤時には職員一人一人が一日の反省を行っている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	サービスステーション内と正面玄関入口に掲示(目につきやすい場所)しており、家族や地域の方々にも理念の理解をして頂けるように心がけている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	催し物や行事等ある時は、近隣の方々にも声をかけ、参加して頂きながら一緒にお茶や食事をしたり等の付き合い方をしている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のグランドゴルフ大会、運動会、除草作業や夏祭り等に参加しながら地域の方々との交流を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム内での支援だけにとどまっており地域高齢者等の暮らしに役立つ話し合いや、取り組みはほとんど行われていない。	○	今後は地域の一人暮らしの高齢者の方々の訪問や、困っている事等の相談や援助が行えるよう、地域の民生委員や町内会長と連携をとりながら出来る事を行っていききたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価そのものは理解しているが、運営者とスタッフ間の認識のずれがあり、具体的な改善までには至っていないところもある。	○	評価を生かした援助が出来るよう運営者や管理者、スタッフが納得いく話し合いを続け、評価を生かした援助が出来るように全員で取り組みを行う。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内での困り事等(特に利用者のサービスの実際)を相談、委員の皆様方のアドバイスを受けながら、そこでの意見をサービスにつなげている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外の市町村担当者との連携はあまりないが、困り事等あった場合は担当者を訪問し、指導をいただいている。	○	今後は推進会議以外の場に於いても、出来る限り行き来する機会を作り、利用者の為のサービスの質の向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解や活用はほとんどできていないのが現状である。	○	ホーム全体で地域福祉権利擁護事業や、成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、必要ある人にはそれらを活用出来るような施設にできれば。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についてはスタッフ全員理解しており、事業所内での職員や、外泊外出時の(利用者)家族の虐待が行われていないか、日々気をつけている。	○	今後も事業所や家庭での虐待が見過ごされる事のないよう、周知徹底していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にはホームの見学(利用者、家族)や体験入所(利用者)等して頂き、十分に説明し理解や納得を頂いたうえでの契約を行っており、退所時(ほとんどが入院)も同様である。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に苦情箱が設けてある為、特別そのような機会は設けていないが、利用者の不平、不満等ないか、お茶の時間等その都度耳を傾け対応している。	○	定期的にそのような場を設け、利用者の声に耳を傾けながら日々の生活に反映させていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、現在の健康状態や日々の暮らし、緊急時の病院受診時には電話連絡等行っている。金銭管理については、金銭出納帳の記入を行っており、毎月御家族に確認して頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置、又家族の面会時にも、気兼ねなく何でも相談してもらえるよう職員一人一人が心がけている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議や食事会等の場を設け、職員の意見や提案を反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常勤6名、非常勤3名の契約になっており、これまで特に問題なく勤務の調整は図れている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットである為、移動もなく、又この1年離職した職員も1名程にとどまり、職員間と入所者も良好な関係にあり和気あいあいと介護に従事している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には交替で参加してもらっており、また研修にいけるよう勤務面では出勤扱いとし、研修への参加を従している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの勉強会や催し物等には、協力、参加しているものの職員の相互訪問等の活動はまだ出来ていない。	○	今後は、他のグループホームの意見交換や交流を深め、サービスの質の向上を目指していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員との雑談や相談等に気軽に応じ職員のストレスの有無や悩み等に対処し、必要に応じて休み等の配慮を行い、働きやすい環境作りやストレス解消作りの研修会等に参加させている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の資格の取得に対しては賃金面で配慮し、研修の参加によって介護力の向上を図り、個々人の介護への意識を高めるように努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常日頃の会話の中で、本人の求めている事や不安等を聞き出し、相談にのる事で信頼関係を築いている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時、家族会、催し物等の行事を通じ、家族の困り事や不安、求めている事等話し合い、相談に応じ信頼関係作りに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や御家族がその時必要としている支援を見極め、早急な対応を心がけており、御家族と利用者の方々には出来る限り安心して生活して頂けるような対応に努めている。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御家族や利用者からのこれまでの生活歴や趣味等を聞き出し、他の利用者の方々との生活を楽んでもらえるような雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干やラッキョウの漬け方、昔ながらの団子の作り方等おそわり、ホーム内での小さな菜園や田んぼには野菜や米を作り、利用者の方々と一緒に育て、収穫を楽しんでいる。		
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	特に家族を一方的に支援しているつもりはないが、ある程度家族の意見も理解し考慮しながら双方の関係をうまく築きあげていく努力をしている。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所者の大半は身よりのない人や、あってもつながりの薄い家族関係の人が多く、そのような家族は行事や催し物等にも積極的でない為、家族と入居者の関係作りには苦慮している。	○	いろいろと計画はしているものの参加してして頂ける家族はいつも決まっている。ある程度強制的にでも家族を中にひっぱりこむ努力をした方がいいのかな？と思う事も...
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が自分の家に帰りたい時、墓参りまた、なじみの知人に逢いたい時等連絡をとりあい、出来る限り本人の希望が叶うような体制をとっている。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	新しい利用者が入所された際は、元気な利用者が身の回りの世話、世間話等して下さっており、食事の支度や後片づけ等も利用者同志で声をかけ合い、お互いをそれぞれ支えあっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も家族に連絡をとりながら現在どのような生活を送られているのか等、困り事や相談に応じている	○	当施設のイベントや行事等にも招待、参加していただけるような企画を今後検討していきたい。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のアセスメントや本人との雑談、家族との面談を通し、本人の思いや希望、志向の把握に努め、その人に合った生活を重視するように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントだけでなく、本人のこれまでの暮らしや生活歴等を把握しながらサービスの利用に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の趣味、興味のある物、ADL等本人の持てる力をアセスメントや雑談、家族との聞きとりの中でそれらを把握し、現状を日常生活の中にとり入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、本人や家族を含め、医療機関等とも連携を図りながら、個別のプランを作るように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じ、プランの見直し、変更等があった場合は、家族や本人との話し合いを行いながら新たな計画を作成するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日々の様子のみが書かれている事が多く、気づきやその人の個別のプラン実施の記録が少ない。	○	ケアプランに基づいた記録が出来るよう指導中である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて出来る限りの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員や消防、警察、学校のボランティア等と協力しながら、日々の生活を支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアプランに添い、病院でのリハビリ訓練や出張マッサージ等、必要あらば他のサービスも利用、支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	推進会議メンバーには地域包括センターの職員もはいており、必要時には連絡や連携をとっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入所者が、かかりつけ医を持っている為、入所後も本人や家族の意向に添い、これまで通りのかかりつけ医、病院の受診を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に認知症専門の医師があり、必要に応じて相談したり等を行っているが受診は利用者本人が拒否している為、相談のみにとどまっている。	○	往診等も含め、出来るだけ受診出来る環境を作ってきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームには看護職が4名おり、日常の健康管理や病院受診、又緊急時の対応等を行っている。又地域看護職との連携も図られている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、管理者や職員は定期的に病院を訪れ、入居者の状態等を観察しながら病院関係者や家族の情報交換や相談に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者や、終末期の利用者の家族のほとんどが病院での治療や入院を希望されている為、そこまでは至っていない。	○	今後は家族、本人、かかりつけ医等と綿密に連絡をとり合いながら、重度化や終末期に向けた方針をスタッフ全員が共有していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	これまで重度化した利用者や終末期を迎えた利用者は、病院での入院、治療を優先しており、特別に事業所内でのチームの支援には取り組んでいない。ただし入院するまでの過程の於いては、出来るだけの支援は行っている。	○	今後、本人や家族の意向をよく聞き、ホーム内で出来る事、出来ない事を見極め、その人らしく穏やかな日々が暮らせるような援助を全員で行ってきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族からの情報や日々の暮らしぶりをもとに、情報を提供し、その他の施設や居所へ移った場合のダメージを最小限に防げるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者も一人の先輩として職員全員がみており、常日頃、言葉かけや態度には注意をはらっている。(特に排泄時の失敗や入浴介助時の言葉のかけ方や対応等)	○	
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	元々家族との絆が薄かった入居者は、本人と家族の思いが平行線である事が多く、入居者の気持ちや思いが職員には伝わっても、家族への説明が思い通りに運ばない事が多い。		せめて、お正月やお盆、墓参り等、最低限家族と一緒に過ごせる時間が作れるようにこれからも家族に働きかけていきたい。
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個人の意志を尊重し、外出や買物等、一人一人のペースで日々の暮らしが行われている。	○	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日用品や洋服等、家族や職員が付添い、本人の気にいった品物を購入、又理・美容等は近所の散髪屋や美容院の出張等で希望に応じている。	○	
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの食物を(何が食べたいか)買物する時に聞き、一緒に買い出しや準備調理を行い、配膳、下膳、洗い物等を職員と楽しみながら行っている。	○	
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みの食物(お酒、菓子、パン等)は特に制限していないので、それぞれに日常的に楽しみ、職員もそれを支援している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人一人の行動パターンを把握し、時間毎の誘導やチェック表等を作り、個々に合った支援を行っている。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、週3回以上(火、木、土)と決めてはあるが、本人が希望した場合や必要と思われた場合には、いつでも入れるようになっている。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々に合わせ、休息する時間や場所、又室温(冷暖房調節、湯たんぽ、扇風機、クーラー温度)調節を行っている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗いや調理の手伝い、行事の準備、野菜作りや収穫、庭の除草、買物や外食、ドライブ等その人に合った役割を持たせ、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。	○	
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る入居者には、千円単位のお金を持たせており、買物や外食、ドライブ等行った時には入居者自身が支払いが出来るように支援している。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、ドライブ、墓参り、お花見等、入居者の希望に応じ外出等を行っている。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近所の温泉や足湯、御先祖の墓参り、外食、昔の友人に逢いに行く等の支援を家族、職員が一体となり行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話や訪問、手紙の代筆等、本人の意向や希望に応じ支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限もなく、(夜9:00以降は消灯となっているが)いつでも気軽に出来る体制をとっており、ホールや居室でゆっくり過ごせるようになっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会や勉強会に参加し、原則拘束は行わないとするケアを行っている。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をするのは夜勤者が一人になった夜間の(19:00～翌7:30)としており、日中は居室や玄関に鍵をかけることはない。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で休息している入居者や、外で作業をして見守りが必要な入居者は、本人のプライバシーを侵害しない程度の声かけや見守りを行い、安全に配慮している。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自分で管理できる入居者には、特別制限はしていないが、他の入居者が他室に入り、物を持ち出したりする場合もあるので貴重品や危険な物品等は(ナイフ、ハサミ)は事業所で保管し必要に応じ本人に渡している。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホーム内での勉強会や、火災時の非難訓練等、自主的に行い、利用者の立場にたった取り組みを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	時々の勉強会は行っているものの、利用者の急変時は看護師に頼っている部分が大半である。		急変時に備え、最低限の応急手当や初期対応が出来るよう(全員が)今後定期的に勉強会や訓練が出来るようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は地元の消防団、消防署等との合同訓練を行っており、地域の方々の協力もお願いしているが、地震や水害等の訓練はまだ行っていない。		最低限の水害、地震災害の訓練も必要であり、今後検討。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時や面会時等に、その時その時に合ったリスクを説明し、納得して頂いている。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りや、朝のバイタルチェック等で情報を共有し、体調変化の早期発見に努め、管理者や介護師に速やかに報告し、対応をしている。		看護師だけに頼らない。勉強することも必要。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者各自の服薬を把握しており、医師の指示通りの服薬が出来るように支援している。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	腹部マッサージや体操、繊維質の多い野菜、果物、牛乳、ヨーグルト等摂取。時には浣腸や緩下剤も使用している。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯みがきや、毎食後のうがいや、義歯の洗浄等、口腔ケアを行い口腔内の清潔に努めている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取量等のチェック(表)を行い、利用者個々の体調に合わせ、出来るだけその人に合った食事の内容を検討しながら支援している。		食事摂取量や水分摂取の少ない利用者は好みの物や食べやすい物等(例えば、プリン、ゼリー、ジュース、粥)を用意している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防に対するマニュアルや勉強会も実行している。又利用者はインフルエンザ等の予防接種は家族や本人の希望や了解を得て行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒時期には出来るだけ生ものをさけたり、調理前や配膳の準備に入る前は手洗いを充分に行ったり、まな板、包丁の消毒等、衛生面に注意をはらっている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入口付近には、季節の花々を植え親しみ易く、玄関は階段やスロープが作ってある為、障害者の方々も安心して出入り出来るようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は(特にホールや談話室)広くゆったりしたスペースになっている。ホールには日頃の入居者の生活が面会時にわかりやすいように絵や写真をはり、ソファでテレビを見たりしながら、ゆっくりとすごせるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや談話室等では、気の合った仲間と思い思いの生活が楽しめるよう職員が心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出の品や趣味で使う品物などは、家族に持って来ていただくようお願いしているものの、それらが実施されているのは限られた家族のみであり、居室全体が殺風景		独居暮らしであったり、家族とのつながりが薄い入居者が多く、なかなかこちらの思いが伝わらず今後の課題。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールにいる時(食事時間や掃除)は、こまめに居室の窓を開放し換気に努めている。又各部屋には冷暖房設備があり、夏、冬の使用時は外気温との差がないよう工夫。		脱臭対策では、使用済みのコーヒーの粉をトイレにおいたり、電気式の脱臭器を各部屋に備えている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の壁や廊下など、手すりを設置、床も軟らかい素材を使い、安全面に考慮している。また各部屋に洗面、トイレをつけ自分でトイレが使える方の配慮もされている。(プライバシーもあり)		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯物たたみ、食器洗い、外での作業等、それぞれの人の能力に応じた手伝いをしてもらい、その人にとって自分が役立っているという自覚が持てるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に菜園や稲を作ったり、野菜や米の収穫の手伝いをしてもらったり、天候の良い日は外で(庭)の食事を楽しんだりしている。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
		○	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

食事摂取が困難な入所者への支援(出来るだけ口から食べていただく工夫)

要介護4.5の入所者で口からの摂取がうまくいかない時トロミ、ミキサー食など食べやすい品や、好みの品を何回にも分けて食べていただく工夫をしています。

寝たきり（要介護4、5）利用者の褥瘡の予防と形成後の介護と治療の実績。

入院後に病院で褥瘡を形成（10×10cm、表皮は黒く壊死し、浸出液と悪臭あり）された利用者であったが退院後は、当ホーム職員のけんめいの介護と治療で3ヶ月後に安全治癒した実績。